

普及活動情勢報告（令和4年3月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

東洋町ポンカン振興対策協議会 第2回通常総会を開催



3月4日、東洋町ポンカン振興対策協議会第2回通常総会が開催され、生産者代表4人を含む15人が出席しました。

室戸支所は、ドローン防除実証やシカの樹皮剥ぎ被害調査結果、低樹高モデル園地設置等の協議会活動報告を行い、JAからは昨年からは始まった県内大手量販店での販売概況と出荷規格改定による精算価格増加見込み等の説明がありました。

生産者代表から「次作が表年のため下級品が大量にダブつくことが予想され、協議会として何とかできないか」と意見が出され、その可能性を探るべく地域支援企画員がアドバイザーを迎えて、勉強会を開くこととなりました。

室戸支所は生産者所得を上げるべく、協議会と一体となって、青果率の向上と併せて加工品開発や販路開拓等についても支援していきます。

ちゃんとGAPができてますか！～馬路村GAP点検巡回～



3月8日、国際水準GAPを実践している馬路村ユズ部会員3人を対象に、実施状況の確認指導を行いました。

農業改良普及課のJGAP研修を受講した普及指導員が、実施内容を定めた「GAP理解度・実施内容確認書」を参考に、取組状況を聞き取りながら現地は場や倉庫を点検しました。

いずれの農家も定められた内容を実施しており、GAPの基本である整理整頓もしっかりできている等、意識の高さが伺われましたが、危険な場所や機械を扱う作業については、事故による営農中断がないよう注意を促しました。

農業改良普及課は、今後もGAPの実践を通じて、健康で楽しく働き続けられるよう支援していきます。

ミョウガ（加工品）の商品化に向けて検討会



3月8日にJA安芸地区女性部なすっこ組を対象に6次産業化チーム会を開催しました。今回はアドバイスをもとに9種類の「変わりみょうがの甘酢漬け」を試作しており、当日、アドバイザー提案の4種類を含む13種類で試食を行いました。

試食した結果、オオバを材料に加えた商品化で検討することになりました。

農業改良普及課は、試作品の配合割合の記録や原価計算を行いチーム会が円滑に進むように資料提供しました。

今後、農業改良普及課は、食品表示、栄養成分の調査等、商品化ができるように支援します。

なすマダムレシピ動画づくり



「1日になす2本」を食べてもらおうと、安芸市施設園芸品消費拡大委員会が3月11日に安芸市女性の家で、レシピ動画づくりを行い、農業改良普及課が支援しました。

ホームページに掲載する1日になす2本を使った1週間分のレシピを検討し、試作しました。生産者からは、「炒め料理をパスタソースにしよう」と、アレンジ料理のレシピも次々と考えられました。

農業改良普及課は、今後も機能性効果がPRできるよう消費拡大委員会の活動を支援していきます。

ユズは最初が肝心！ ～ユズ講座（定植）を開催～



3月13日に安芸市東川現地ほ場でJ A安芸地区柚子部が「ユズ講座」を開催し、生産者や関係機関ら32人が参加しました。

この講座は平日に参加できない生産者のために、年に3～4回日曜日に開催しており、今回はユズの苗木の定植をテーマに行いました。

農業改良普及課は、定植作業のポイントや定植後の管理について説明し、J A営農指導員と実演しながら作業のポイントを指導しました。

参加者からは、「根はそこまで丁寧に広げんといかんがやね」といった声が聴かれ、定植作業について理解が深まった様でした。

次回は5月ごろ幼木期の重要な作業である「誘引」をテーマに講習会（現地）を開催する予定です。

芸西村の新規就農者を巡回指導



3月16日、農業改良普及課の栽培担当と経営担当、芸西村役場、JAで、芸西村で促成ナスを栽培する新規就農者2人のハウスを個別巡回し、今作の収量、病虫害の発生状況、今後の規模拡大の予定などを聞き取りました。

2人は順調に栽培を続けており、「単為結果の新品種を試しに数株栽培している」、「来年は機械を導入する予定」とも話し、益々の経営改善に取り組んでいます。

農業改良普及課からは、「殺菌剤の予防散布を続けるように」、「わからないことがあったら遠慮せずに聞いてほしい」などと助言しました。農業改良普及課は今後も定期的に巡回指導し、新規就農者の栽培技術向上、経営改善を支援します。